

年 組 名前：

【ナイロビ共同】世界の海に生息するサンゴが2009年から10年間で14%減少したとの調査結果を国連環境計画（UNEP、本部ナイロビ）の支援を受けた国際研究チームが発表した。地球温暖化による海水温の上昇でサンゴの白化が広がったことが主な原因と結論付けた。

10年間で減少したのは、オーストラリア海域の全てのサンゴを上回る量に匹敵するという。チームは、回復には「国際的な一致した努力が必要

## 世界のサンゴ 10年で14%減 研究チーム「温暖化で白化」

日本沿岸を含む東アジアの海や太平洋、西インド洋など10の海域の計1万2千カ所以上を対象に、約40年分のサンゴの観測データを分析した。

分析によると、1998年に大規模な白化が発生し、世界のサンゴの8%が死滅したが、2009年には以前の水準以上に回復していた。だがその後は海水温の上昇が顕著となり、サンゴも減少に転じた。

白化は、体内に共生して栄養を与えている植物プランクトンが失われ、サンゴの骨格が白く見える現象。海水温が30度を超える状態が続くと広い範囲で起きるとされる。

UNEPはこれまでも、温暖化に伴う海水温の上昇で、今世紀中に世界の全てのサンゴ礁が消失する恐れがあるとの見通しを示している。

(2021年11月9日付 山梨日日新聞12面)

問1 世界の海に生息するサンゴが、最近10年間で ①%減少しました。②による③の上昇でサンゴの白化が広がったことが原因とみられます。①～③に入る数字、言葉は何ですか。

① 「        %」        ② 「        」        ③ 「        」

問2 サンゴの白化とはどんな現象か、説明してください。

.....

.....

問3 このままでは、今世紀中に世界のサンゴが消失する恐れがあるとの指摘もあります。原因である地球温暖化を防ぐため、私たち一人一人にできることは何か考え、いくつか挙げてください。

.....

.....